



NO 若き血  
NO LIFE!

TEAM1993

## 「若き血」とは、なんだろう。

もうすぐ卒業から25年。慶應義塾の絆は、三田会の仲間は、ずっと励まし合う同志であり、お互い高め合うライバルだった。そして毎日をごさす私たちの誇りであり、支えだった。そうだ。私たちの人生に慶應義塾が、「若き血」がないなんて考えられない！だからこそ四半世紀の時を超え、今再び集おう。そして語ろう。25年前の若き日のことを。25年間あなたが紡いだ物語を。これからの25年間に見る夢のことを。そして考えよう。次世代の後輩たちの「若き血」に何ができるかを。そしてあらためて確かめよう。

これまでも、これからも、私たちに  
迸っているのは「若き血」であることを。



## 「1993年三田会の皆様へ」

慶應義塾 塾長

清家 篤

1993年三田会の皆様、卒業25年目の年を迎えられますこと、誠におめでとうございます。この節目にあたり、記念事業実行委員会を組織され、記念事業を種々催されるだけでなく、塾生への「奨学金」の募金活動も進めて下さっていることに、慶應義塾を代表して心より御礼申し上げます。こうした奨学金は塾生にとって経済的な支援となるばかりでなく、先輩の塾員が後輩の塾生を思う心がこもっているだけに、それを受ける塾生にとって大きな心の励みになるものです。

卒業25年記念事業を通じて、会員相互の旧交を温められ、さらに交友の輪を広げていかれることと思います。そしてまたそのことから皆様が、慶應義塾社中として慶應義塾の未来に向けた目標を共有され、その歩みに共にご参画頂くことを願っております。来年3月の卒業式では、皆様方から、新しく塾員となる卒業生たちを激励して頂けることを、有り難く思い、また楽しみにしております。これからも引き続き慶應義塾へのご支援をお願い致しますとともに、皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。



慶應義塾 1993 年三田会  
卒業 25 年記念事業  
実行委員会 実行委員長

川鍋 一郎



1993年三田会の同期の皆様、日々それぞれの分野でご活躍のこととお慶び申し上げます。慶應義塾には、卒業25年の塾員を卒業式に、卒業50年の塾員を入学式にそれぞれ招待し、塾長主催の塾員招待会を催すという恒例行事がありまして、我々も2018年の卒業式に招待されます。この「25年に1度」の貴重な機会に、「2017年5月のキックオフ同窓会」「塾生奨学金の募金活動」「2018年3月の大同窓会」という三大イベントを実施し、併せて、「1993年三田会塾員名簿の整備」と「記念誌の編纂」を推進することと致しました。特に奨学金につきましては、それぞれの夢を抱いて同窓となった後輩たちが、様々な理由で慶應義塾での勉学を諦めることのないよう、我々の代の冠のついた「1993年三田会記念大学奨学金」として授業料へ充当されます。一人でも多くの後輩たちが我々と同じように「若き血」を歌い、そしていつしか卒業25年を迎えた時にその後輩たちに寄付を継続してくれるとしたら、そして我々自身もこうしたイベントを通して「若き血」への情熱を思い起こすことができれば、これ以上の喜びはないのではないのでしょうか。「NO 若き血 NO LIFE !」これが我々1993年三田会のスローガンです。それぞれの「若き血」を胸に、まずは2017年5月のキックオフ同窓会で、そして、2018年3月の大同窓会および卒業式でお目にかかりましょう！

## 卒業 25 年記念事業とは？

1993年に慶應義塾大学を飛び立った私たちは、2018年3月に卒業25年を迎えます。それを記念して、かつての同級生たちが集まり、「塾への恩返し」と「後輩たちに伝統と希望をつなぐ」ことを目的に力を合わせていく、これが「1993年三田会 卒業25年記念事業」です。慶應義塾の同窓会「三田会」において、卒業50年とともに、代々継承される最大の事業イベントと位置づけられています。

**2018年3月26日(月)、私たち1993年三田会は、慶應義塾大学卒業式に招待されます。**

慶應義塾では、毎年、卒業25年を迎える塾員を日吉記念館（※記念館改修のため、2018年はパシフィコ横浜にて開催）で開催される卒業式に招待しています。25年前の自分を思い出し、希望に満ち溢れる後輩たちの門出を祝福し激励するこの行事は、1953年から続く塾の大切な伝統の一つです。

この記念すべき日を中心に、1993年三田会は以下の記念事業を展開します。

### 1. 大同窓会の開催

2018年3月24日(土)は、  
ザ・プリンスパークタワー東京に集合！

### 2. 奨学金資金の寄付

夢を追う後輩たちを力強くサポート！

### 3. 塾員名簿の整備

「NO 若き血 NO LIFE」  
仲間との連携をさらに強める！

### 4. 記念誌の発行

「あれから25年」を振り返る！

1993年三田会は、大学卒業25年大同窓会記念事業を通じて一人でも多くの仲間と旧交を深めながら、奨学金資金の寄付という形で後輩たちのバックアップ、塾への恩返しをできればと考えています。そして、大同窓会と、慶應義塾からの卒業式・塾員招待会のご案内を確実な1993年三田会同期全員にお届けすることを目標に、塾から提供された名簿データの整備を行います。なお、整備されたデータは改めて慶應義塾に戻され、今後の三田会の活動に役立てられることとなります。

# 1. 大同窓会の開催

2018年3月24日(土)は、ザ・プリンスパークタワー東京に集合！

2018年3月24日(土)、私たち1993年三田会会員は、ザ・プリンスパークタワー東京に集い、卒業25年を祝う大同窓会を開催いたします。毎月のように顔を合わせている親しい友人はもちろん、FacebookなどSNS上でしかやり取りしていない友人、あるいは卒業以来すっかり音信不通になってしまっていたかつての同級生とも、久しぶりに再会するまたとない絶好のチャンスです。例年、参加者は約2000人近くにのびります。

さあ、現在鋭意計画中である様々な同窓イベントや、クラスやサークルごとの撮影会をきっかけに旧交を温めよう！そして次の25年にむけて、さらに絆を強めていこう！

※大同窓会のご案内は、来年1月初旬に皆様のご自宅に発送予定です。



「あの日から25年。今再び集おう！」

詳細は随時アップデート <http://1993mitakai.jp> に今すぐアクセス！

## 2. 奨学金資金の寄付

～夢を追う後輩たちを力強くサポート！～

これまで、卒業25年を迎えた多くの先輩方は「社中協力」の精神の下、母校への恩返しとして記念の寄付を行ってきました。私たち1993年三田会からも、奨学金の資金を寄付することとし、そのための募金活動を実施致します。

それぞれに将来の夢を胸に抱き、日々勉学に励み、懸命に充実した学生生活を送ろうとしている後輩たちが夢を途中で諦めることのないよう、一人でも多く支援するためのご理解とご賛同・ご協力を何卒お願い致します。

### 【目的】

#### 【1993年三田会記念大学奨学金】

本奨学金は、慶應義塾大学学部学生（私費外国人留学生を含む）のうち、慶應義塾の学生としてふさわしい優秀な人物・学業・成績で、かつ経済的理由により修学が困難であると認められた者に対して、使途を授業料への充当とする奨学金を給付し、援助することを目的とします。

### 【募金単位】

◎個人名義 一口 10,000 円

できましたら三口以上のご寄付をお願い致します。  
ご寄付をされた方には、後日発行される卒業25年記念誌をお送りする他、お名前が慶應義塾機関誌「三田評論」に掲載※されます。※お名前の掲載を希望されない方は、以下委員会までご連絡下さい。  
奨学金委員会メールアドレスscholarship@1993mitakai.jp

◎法人名義 一口 50,000 円

できましたら二口以上のご寄付をお願い致します。

### 【目標金額】

3,000 万円以上

### 【募金期間】

2017年4月1日(土)～2018年4月30日(月・祝) →寄付方法はP.9へ



理工学部システム  
デザイン工学科3年  
半谷 聡さん

### 慶應義塾を志した理由は？

とても優れた研究実績を残されている教授方や、全国から集まってきた優秀な学生たちに囲まれ学べると同時に、日吉キャンパスで他学部の学生とも交流を深められることも魅力的だったからです。

### 現在どのような塾生生活を送っていますか？

宇宙開発に関わる、という将来の夢に向かってより専門的な学問を学んでいます。今後は、研究室に配属され卒業論文発表に向けて研究を進めています。私は遠隔操作ロボットの研究をする研究室に入りました。宇宙開発で活用できるようなロボットを研究しJAXAなど宇宙開発の最前線で活躍したいと考えています。

### 奨学金を受けようと思ったのは？

父が体調を崩し働きなくなってしまい大学の学費が大きな経済的な負担になっていました。そんな中、慶應義塾に返済不要の給付奨学金があることを知り申請しました。重たい奨学金は私にとって経済的な支えとなるのと同時に、精神的な支えにもなっています。自分の学びたいことのためにしっかりと時間を使うことができることも大変有意義です。

### あなたにとって、夢中になれる「NO LIFE」は？

大学入ってから始めた自転車です。元々小さい頃から将来は色々な場所を旅してみたいと考えていたので、仲間と一緒に自転車だけで旅ができる慶應サイクル部を見つけた時すぐに入部を決めました。アルバイトで少しずつ貯めた旅費を使って毎年夏に自転車旅をし、大学3年間で日本縦断を達成しました。

### あなたにとって「若き血」とは？

青春時代に築き上げた人と人の絆です。115年の歴史のあるサークルで過ごす中、何十歳も年上の先輩方がかつてのサークル仲間と本気で楽しそうにお話をしている姿を見ていると、慶應義塾で青春時代を過ごすことで、人と人との絆は血となり生霊私たちの体をめぐり続ける。そしてそれは、一生の財産になるのだと感じました。

### 1993年三田会のメンバーにメッセージを！

私は奨学金を頂き安心して勉学に励むことができました。そして卒業後も、塾生と塾員のつながりが続いていく慶應義塾の伝統を改めてすごいと感じました。私のような塾生にとって、1993年三田会の皆様によるご寄付は評定に大きな支えとなります。少しでもご支援を頂きますよう、心よりお願い申し上げます。私も慶應義塾を卒業し塾員となった際には、塾員が塾生を支えていく伝統を受け継いでいきたいと思っています。



法学部政治学科3年  
塩田 あすみさん

### 慶應義塾を志した理由は？

高校3年の冬にベトナムを訪れたことがきっかけで東南アジア諸国に関心をもち、地域研究をするため法学部政治学科への入学を志すようになりました。慶應義塾に馴染みたい先生がいらっしゃったのも大きな決め手でした。

### 現在どのような塾生生活を送っていますか？

昨年は、2つのゼミにてそれぞれ民法の学習と論文執筆に取り組み、また複数のインターンにも参加し充実した1年でした。私には外交官になるという夢があります。昨年夏にタイに行った際、異なる制度や文化を学ぶ楽しさを知り、同時に日本についてもっと説明できるようになりたいと感じました。帰国後、国際政治や哲学の授業を通じて「平和」を考えるにつれ、「安定した世界秩序」の形成にも貢献したいと思うようになりました。今はその夢を叶えるべく試験勉強に励んでいます。さらに、夏から奨学生として米国へ交換留学に行くため、その準備も進捗して行っています。

### 奨学金を受けようと思ったのは？

海外で働く父が入院したことです。また、同時期に遠方の祖父が病気を患い、定期的な金銭的援助が受けられなくなってしまいました。朝から晩まで学校とアルバイト先を往復する毎日が続く中で、この奨学金を学費の支源として頂きたいと考え応募しました。

### あなたにとって、夢中になれる「NO LIFE」は？

ずばり「No desire, no life」。困難に直面した時は、自分ができることを全力でやる。そうすると、そのうち事態が好転し希望が見えます。奨学金の給付や交換留学が決定したのも、目指したい道を見つけ全力で取り組んだ結果であると思います。また、自身が持っている夢も「周りへの恩返しをしたい」という気持ちに基づいています。向上心や目標達成への強い「願望」こそ、これまでの私を支えてきた輪であると考えています。

### あなたにとって「若き血」とは？

「慶應の絆」だと思っています。何十年離れていても、出身校という共通点からつながる思いこそ、「若き血」の源ではないでしょうか。年月を経てまなお強い帰属意識に基づいた「慶應義塾のつながり」こそ、私たちにも流れかつ後輩にも受け継いでいくべきものであると感じています。

### 1993年三田会のメンバーにメッセージを！

一番お伝えしたいのは、感謝の気持ちです。奨学金を頂いたことにより、勉強や自分の将来について考える時間を確保することができました。また、奨学金も、奨学生として先輩方とお会いする機会があるのは、勉強のモチベーションを高める上でも貴重な機会だと感じています。今の環境は、家族や皆様のお力添えがあったからこそ。今後は温かく見守って頂きたいと同時に、卒業後は、自分もぜひこのような機会を後輩に与えたいと思っています。